

センター家庭電器株式会社（卸売業(法人)）

1947年（昭和22年）、日立家電品の特約店として創業される。日立家電品の販売卸業や環境省エネ、ビジネス事業など、地域に根ざした事業を展開している。従業員は45名。

【平成29年10月】

協会けんぽ茨城支部の「健康づくり推進事業所」として認定される

【平成31年2月】

経済産業省・日本健康会議による顕彰制度「健康経営優良法人2019（中小規模法人部門）」に認定される

【平成31年3月】

茨城県による第1回「いばらき健康経営推進事業所」に認定される



【伊藤社長】

■本格的な健康経営に至るまで

毎年協会けんぽの保健指導を活用している中で、「健康づくり推進事業所認定制度」のお話をいただき、宣言を行いました。その後、社内ですべての社員も増えてきたため、社員の健康についてもっと考えようと、平成30年10月の「いばらき健康経営推進事業研修会」に参加しました。そこで健康経営についての知識が深まり、健康こそ会社経営の基礎であると考え取組みを加速させました。

また、茨城県の「いばらき健康経営推進事業所」の認定を受けたことが一層取組みを進めるきっかけになりました。やはり県知事から表彰を受けることは会社にとって名誉です。



■社員のために続ける

健康診断は、人間ドックも含め会社から補助を出して受けられるようにしています。総務がフォローを行い、全員が受診するように声掛けしています。健診の結果、所見のある方には医療機関へ受診するよう嘱託医に厳しめのコメントを記載していただいています。受診しない方には定期的に受診を促し、根気強く何度も声をかけるようにしています。続けていくことで、1年2年かかっても、皆が病院にかかってくると良いと思います。

■コミュニケーションの場を大切に

運動不足解消のため、ボーリング大会を年に2回行っています。部署ごとでチームを分けたり、景品を出したり、工夫しています。男性社員が多いため、スーツでも気軽に運動不足を解消できるレクリエーションということが好評を得ている要因かもしれません。現在では40名程が参加する一大イベントとなっています。

他にも月一回の全体会議で本部方針を話す場を設けたり、お食事会を設けるなど、コミュニケーションの機会を多く取り入れるようにしています。



本社

■健康経営優良法人2019の認定後の変化

最近まで屋内に喫煙所を設置していましたが、健康経営優良法人の認定をきっかけに喫煙所を屋外に移動しました。健康経営優良法人認定という理由を明確にすることで、社員からの理解も得やすかったです。

また、名刺に健康経営優良法人のロゴマークを記載し名刺交換の時に健康経営を進めている会社だということをPRするなど、話題作りにも役立っていて、社員一人一人への意識づけになっています。

自社の健康課題をもとに検討した取組みとして社内の自動販売機の内容を甘い飲料から、お茶や特保商品を置くように変更しました。「健康サポート」というポップも設置してもらい、今後の売上をチェックし、従業員に健康への意識変化があるか確認していきたいと思っています。



屋外喫煙所



ポップも設置



左：勝村様 中央：小松崎課長代理 右：伊藤社長

さらなる健康経営を目指して

伊藤社長曰く、「健康経営に目覚めました」とのこと。社員に健康経営優良法人認定といばらき健康経営推進

事業所認定を受けていること、「健康経営は会社と社員にメリットがある」ことを伝えていきます。今期の事業方針にも『健康経営：社員が健康なら会社も健康になる/そうあらねばならない！』と明記しており、社内へ浸透させることで、健康を意識できる「社員が育ってくればよい」と一つのきっかけになることを期待されており、今後も、社員一丸となって健康経営に取組まれることでしょう。